

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームみのり ユニット1	評価実施年月日	平成21年7月27日
評価実施構成員氏名	笹谷・菅野・高原・目黒・新屋・中屋・石田・外山		
記録者氏名	笹谷 孝子	記録年月日	平成21年8月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護計画のモニタリングのみならず必要に応じて管理者が利用者宅へ伺いお話を聴くようにし、職員も日常的に居室やロビーなどで個別に訴えを聴く機会を設けている。又、出された意見は申し送りや朝礼、終礼、全体会議を通じて早目の対応に心掛ける等運営に反映させるよう取り組んでいる。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族が来施設の際には、管理者やケアマネジャーや担当職員がお話を伺う機会を設け、必要に応じて報告を行なっている。(早急な時は、来施設いただくことも事ある。)遠方のかたは、電話や手紙やメールにて適宜報告を行い情報交換を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族来施設の際には管理者がお話を伺う機会を設けている。施設内には、「ご意見箱」を設置し、出来るだけ率直なご意見を汲み取れる工夫をしている。また、玄関ロビー内に外部の苦情受付窓口の連絡先を表示している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	必ず月1回(第3週目の火曜日)全体会議を開催して意見の交換や情報の共有や提案を聞く機会としている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	早出や遅出など勤務を調整している。入所者も要介助者が多く勤務体制の調整も必要と考えている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	勤務異動は基本的にない。離職等やむを得ずに代わる場合は、引継ぎを十分に行い利用者にも納得できるような説明を行なう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>積極的な研修の参加や情報提供、研修機会が確保されている。また、月1回の全体会議にて研修参加者が他の職員に対し研修内容を発表する場を作り情報の共有化を図っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は、G・H協議会や地域包括支援センターへ参加し、ネットワーク作りやサービスの質を向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩時間の確保や勤務を組む際できるだけ休日希望を取り入れる工夫を行なっている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の自発的な意欲を尊重し、やりがいのある仕事となるよう配慮している。又、興味のある研修会参加や資格取得等についても情報提供や相談の機会を作っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>状況に応じて入居前に前の施設や病院に出向き面談等行なっている。見学は必ずしていただき、不安の解消に努めている。御家族(キーパーソンを中心に)関係機関、主治医、相談員(MSW)等から情報を収集してスタッフにも情報を伝え理解を求めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>状況に応じて入居前にどのようなことが一番心配なことかを十分に面談等行なっている。見学は必ずしていただき、施設内を理解していただき不安の解消に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時にお話を伺い、必要に応じ、他の機関への紹介や必要と思われるサービス内容の説明等行なっている。相談にきた家族の不安の軽減に努め介護者支援としてのサービスの紹介などを行なっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必要に応じ担当の職員が関わり食事の場所等配慮したり他利用者との関係を上手く出来るような仲介をする。威圧的に感じないような話し方かわり方に気をつけるなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	単にサービス利用者として捉えるのではなく、人間的な関わりを通してケアを構築し、自然な感情の交流を持ちながら生活を共有している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の様子や変化についてお伝えしながら、必要に応じてご家族にもチームの一員として、ご本人支援にご協力をいただくなどしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	それぞれの利用者様、ご家族に応じた対応に心掛けている。また、2ヶ月に1回、「みのり便り」を発行しご家族を中心とした関係者に郵送・配布している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご要望に応じて宗教集会や親戚宅や古い知人宅等への送迎したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ホールのソファーにテレビを配置し、複数人で過ごせる空間を設けている。入所者間で楽しめるゲームを行ったり洗濯物やお絞りたたみ呼びかけ数で行ったりしている。いつの間にか集まってくる状態である。利用者様同志のトラブルには、職員が仲裁に入るなどの対応をしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	みのり祭りの案内を出したり、入退所の支援や心配な事等を電話相談を行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントツールは、センター方式を用いてその人らしい暮らしの構築を図っている。必要に応じて御本人との相談の機会を持つなどして思いや意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅生活時のサービス利用時の担当ヘルパー・通所サービス・ケアマネジャーやキーパーソンである家族、主治医や病院の関係機関からの情報を得る。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1人1人個人の生活パターンの日課表を作成して対応している。毎朝・夕に足浴を行い、心身状態の把握する機会としている。また、利用者の状態の変化した場合等も、その都度「どのくらいの力が残っているか」を考慮しながら、対応について検討を重ね実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントツールは、センター方式を用い、利用者本位の計画立案を目指して。また、必要に応じて御本人や御家族、関係者とのカンファレンスや情報交換の機会を持ち計画に反映するよう努めている。担当職員とも情報交換は密に行いながら計画立案している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間終了の時期に合わせて担当者や関係者とカンファレンスを行い、見直ししたり修正している。また、入退院後等は、利用者の状態に変化があった場合は、出来るだけ早目に情報収集し新たな計画を作成するようにしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録は、利用者自身が話した言葉を盛り込む事や職員の関りのその結果どうなったか、利用者が行事や取り組みごとに参加された時は、どんな反応だったか等を着目しながら記入し、ケアに実践や介護計画への反映を図る。また、必要に応じて申し送りノートを活用し、情報の共有と周知するように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	共用型認知症対応型通所介護を実施している。昨年、8月より訪問看護ステーションが併設され、異常の早期発見と早期対応が可能となる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	単独外出等の事故・危険への配慮が必要な方には、御家族に承諾を得た上でSOSシートを作成し、警察や町内・近隣に情報を提供したり何かあれば御連絡頂けるよう連携を取っている。運営推進会議や地域交流等を主旨としたお祭り(年1回)を実施し、地域との協力体制構築に努めている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医療機関、福祉用具取り扱い業者、訪問マッサージ、訪問理美容師等の利用支援を行なっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	時間の許す限りには、月1回の地域包括支援センター主催の会合、居宅介護支援事業所主催の研修会にはケアマネージャーや職員も出席している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の医療機関や利用者にとって馴染みのある医療機関を利用している。訪問看護師とも密に連絡を取りあっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医との相談を行ない、認知症の専門医に受診して指示を仰いでいる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設内に訪問看護ステーションが併設されていて、入居者について相談したり、医師と連絡を行い円滑に医療との結びついている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際には、簡単な要約を記載して施設での様子等をまとめる。退院のメドがたてば、今後における注意点や受診のペース等の意見交換やカンファレンスを行なう。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状況の変化が予測される方については、御家族には些細なことでの報告を行なう。往診医との密な連絡の元情報の共有を図っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	毎日の細かな変化は、訪問看護師に状態や状況を報告し医師への連絡をしていただき指示を仰いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>状況により新しい住居への下見や御本人・御家族・関係者や関係機関との話し合い、周辺環境の下調べを行なうなど対応している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者中心のケアを基本に、プライバシーへの配慮を心がけている。又 個人情報の取扱いについても、適宜職員間に注意を促し、意識を高めるようにしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>居室や1階ロビー等、場所にも配慮しながらマンツーマンで思いや希望を伺い、場合によっては言葉だけでなくメモ書き等利用して説明を行ない、自己決定への支援を行なっている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>限られた職員配置の中で、出来るだけ利用者の希望が実現できるよう工夫し対応している。出来ない事は、御本人と相談しながら決めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者は、それぞれの状態に合わせた支援を心がけている。理美容も利用者の馴染みのお店や地域のお店を利用している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備は、基本的には職員が行なうが、準備や片付けは出来る利用者には協力してもらっている。そのほか、おやつを用意や簡単な作業を利用者に応じて職員と一緒にしなう等している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	居室内での火気取り扱いについては原則お断りしているが、ロビーやホールに灰皿を設置している。 その他嗜好品については、体調に応じて特別問題なければ楽しんでいただいている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の羞恥心を前提に配慮し、出来るだけ排泄習慣の自立を損なわないように支援している。 オムツやパッド利用の利用者でも可能であれば自力排泄移行を行なう。排泄誘導についても尿意の自覚を損なわないようキャッチし御本人の訴えに対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1週間の基本の曜日リストを作成している。 体調に合わせて排泄による汚染があればその都度対応して清潔の保持に努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	朝・夕の足浴を行ったり、晩酌等の個別の習慣を損なわないようにしている。 又、落ち着けずにいる利用者には、施設内散歩や状態によっては添い寝する等して安眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ドライブや散歩、折り紙等楽しみとされている習慣の支援、台所しごとや洗濯物たたみ等の家事、畑仕事やゴミ捨て、日めくりカレンダーの管理等、役割を活かせる配慮をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望や必要に応じて金銭管理を行い、使い道等について相談に応じる。 一緒に買い物や銀行に付き添う等している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブ、買い物支援等行なっている。 又、可能な利用者には、緊急時の対応を講じつつ不穩時には、散歩やドライブで外出が出来るよう取り組んでいる。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	要望があれば、出来る限りに対応をしている。飛行場、近隣の道の駅、回転すしや有名なソフトクリーム店に行ったりと企画を組み入れている。 家族の希望の通り外出や外泊等の機会を作っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設内に自由に使用できる公衆電話を設置している。 又、必要に応じてお手紙についてもお手伝いしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所者については、特に制限等なく、又場合によっては面会の呼びかけもしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	朝礼・終礼や職員会議、又個別的に身体拘束について話し合う等して理解を深めている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	危険防止の観点からやむを得ず、利用者、御家族へも御理解を呼びかけた上で、階段口に施錠しているが、一方で階段手摺りの増設等(転落防止)、出来るだけ鍵をかけない工夫を行なっている。玄関口は、出る際、スイッチで開閉するようになっている。居室内は希望があり、一部取り付けしているが、緊急時には職員が開錠できるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日勤帯では、各担当を決めて、利用者の把握に努めている。 夜間帯は、2時間毎に見回りして状態把握と安否確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	喫煙する利用者がホールのテーブルにライターを取り付ける。(伸縮性のある太い紐)保管場所の工夫を行なっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告を朝礼でも発表し毎月の会議にて再度対応等の話し合い検討している。服薬マニュアル作成誤薬等無い様意識を高める。SOSシート作成し、必要に応じて警察に届ける。灰皿は水を入れるタイプを使用している。又、研修その他で得た知識を会議の場で発表し職員内での共有を図っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全員ではないが、約1/3程度の職員普通救命講習を終了している。 全体の会議にて人間のモデルを使って異物(誤嚥)吸引用具の使用を実技講習を行なっている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防災訓練を実施している。特に、防火設備の配置場所や使用方法の確認、避難誘導時における危険箇所の把握等に重点を置いて取り組んでいる。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	プライバシー尊重の上起こりうる自室内での転倒等にリスクについて、日頃より御家族に説明を行ない対応については、その都度相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>朝・夕の足浴を行ない体調のチェックの機会としている。又入浴や清拭の際にはさりげなく身体を観察を行なう等している。異常があった場合は、訪問看護師と連携を取り合い対応している。</p> <p>記録や申し送りノートを利用し情報を共有し、必要に応じて朝礼・終礼時に打ち合わせるようにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬と一緒に薬局で出される説明書を保管し、必要時に確認している。</p> <p>新たに処方されて薬や特に用法上に注意の必要なものについては申し送りノートに情報を共有し、必要に応じて注意を促したりその後の経過を報告し合っている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>飲食物では、バナナや牛乳等工夫したり、便秘時には、腹部マッサージ、ホットパックで保温等対処している。</p> <p>日頃から排便状況の把握に努め、訪問看護師と連携し対処や指示を仰いでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>食事終了時には、必ず口腔ケアを行なっている。モーニングケア・イブニングケアも自立に合わせて準備・見守り・介助を行なっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>10時と15時に水分補給を行なっている。又気温の高い季節は水分補給係りを別に決め、それ以外の時間も補給を促している。拒否のある方には、ゼリー・プリン・アイス・クリーム等水分が摂れるよう工夫をしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>うがいと手洗いを励行している。手拭きには、ペーパータオルを使用している。</p> <p>ノロウイルス対策については、各居室内に対策箱を設置している。定期的に物品を確認して不足物は補充している。ソリューションウォーターの噴霧も継続して。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>定期的には、まな板漂白を行なっている。利用者の出すお絞りは電子レンジにて加熱消毒している。調理者は、マスク、使い捨てビニール手袋を使用している。手洗いや食中毒防止に関する掲示等</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関に行事の際撮った写真を飾ったり、みのり便りを掲載したりグループホームに関しての説明をわかりやすく書いたり掲示物を貼ったりしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>正月飾りや七夕飾り、雛人形、クリスマスツリ-等季節に応じた装飾等配置している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>1階の玄関ロビーや2階ホールやソファ等配置し、各自利用していただいている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>以前から使用していた、タンス、ベッド、仏壇といった使い慣れた家具等を持ち込んでもらったり、御家族の写真や飾り等、お気に入りのものを壁に貼ったりしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>晴天時には窓を開け、布団干しを行なっている。又、電気消臭器やソリューションウォーター噴霧器を活用している。冷暖房については、こまめに調節して対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p><input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の数 2 / 3 くらいが <input type="radio"/> 職員の数 1 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者数 2 / 3 くらいが <input type="radio"/> 利用者数 1 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等数 2 / 3 くらいが <input type="radio"/> 家族等数 1 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・スキミングの効果や1対1での関りやコミュニケーションの場もあり朝・夕の足浴は、とても、信頼関係が保つこともでき不安な事や心配な事等話せる場となっている。
- ・入居者・職員・御家族・来訪者の出入りには手洗いうがいやインフルエンザや受診時のマスク利用等感染予防に努めている。
- ・1年間の中で最大イベントであるみのり祭りを職員や地域や近隣の協力のもとに開催し御家族との交流機会として定着化して楽しみにしてもらっている。
- ・併設している訪問看護ステーションの看護師との連携や相談が常時行なえて医療面での安心感が持てる。
- ・天気がよい日には、外気浴の為にドライブを催し気分転換に努めている。暑い日よりには、ソフトクリームを食べたりと楽しいひとときを過ごしている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所, 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム みのり ユニット2	評価実施年月日	平成21年8月17日
評価実施構成員氏名	小野寺・中田・佐々木・石田・野村・玉置・佐藤・城		
記録者氏名	小野寺 香	記録年月日	平成21年9月23日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員は日常的に居室やロビーなどで個別に訴えを聴く機会を設けている。又職員は担当制により、利用者と密に関われるようにし、申し送りや朝礼、定例会議を通じて早めの対応を心掛けるなど、運営に反映させるよう取り組んでいる。家族や知人が来訪した時には、利用者の状況や状態を報告し、情報の共有を図るよう心掛けている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族来所の際、(料金支払い時、利用者面会時など)ケアマネや管理者がお話しを伺う機会を設け、報告を行なっている。その他、電話やファックス、メール、郵便を利用し適宜報告を行なっている。定期的にみのり新聞を発行しご家族に配布している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に「ご意見箱」を設置し、出来るだけ率直な意見を汲み取れるよう工夫している。また玄関ロビー内に外部の苦情受付窓口の連絡先を表示している。意見があった場合はすぐに対応している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の会議や主任や役割に応じたスタッフとの話し合いを行っている。各委員(ヒヤリハット、感染予防、排泄担当・レク行事、新聞、口腔ケア、おやつレク等)スタッフ全員が各役割に関わり、担当委員ごとに相談や検討を行い、各委員担当者からの報告や推進に関する連携や共有化を定例会議で行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	早出・遅出などで勤務を調整し、ターミナル時やマンツーマンの対応時には、勤務の調整を行なっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職等やむを得ず代わる場合は、引継ぎを密に行い、利用者さんへの配慮を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>出来る限り個々の職員の関心に沿って外部研修の参加を促してる。 また月1回の定例会議にて、研修参加者が他の職員に対し研修内容を発表する場を作り、研修内容の情報の共有を行なう。 又会議などで、感染や異物吸飲方法などの研修を定期的に行なっている</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>G・H協議会主催の研修や地域包括支援センター主催の交流会等への参加などを通してネットワーク作りやサービスの質向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の心身の疲労に留意し取り組まれている。また、昼休みにリラックスできる環境作りや勤務を組む際できるだけ休日希望を汲み取るよう工夫している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の自発的な意欲を尊重し、やりがいのある仕事となるよう配慮している。 また研修参加や、資格取得などについても情報提供や相談機会をもつなど。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に必ず面談を行なっている。状況に応じなるべく見学して頂き、不安の解消に努めている。 その他、ご家族や関係機関からの情報収集を行なっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には必ず面談・見学をして頂いている。又都度の電話等の対応で不安感を除去できるように対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時にお話を伺い、必要に応じ、他の機関への紹介や必要と思われるサービス内容の説明またリスクについても説明を行なっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	穏やかに過ごしていただけるように必要に応じて職員をマンツーマンで関わるなどの配置を行なう。他利用者との関係に注意し圧力を感じないよう接し方に気をつけるなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の「尊厳」を尊重する事と「できること」への支援を柔軟に行っている。家族や関係機関からの情報およびセンター方式Dシートの活用		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の認知症の程度や身体能力の見極めを共有できるよう心掛けながら、必要に応じて、ご本人支援のご協力いただくなどしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	それぞれの利用者様、ご家族に応じた対応を心掛けている。また2ヶ月～3ヶ月に1回、「みのり便り」を発行しご家族を中心とした関係者に郵送・配布している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご要望に応じて宗教集会の出席やご家族のお見舞い、を支援したり、古い知人宅などへ送迎したりしている。又利用者が昔から利用していた床屋に定期的に利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	誕生会や行事、ドライブその他の機会を活用しながら個々の性格を踏まえて対応している。又洗濯物やお絞りたたみ呼びかけあい数人で行なうなどしている。働いていると思っている入居者が見守りを要する入居者の話し相手になってくれたり、職員見守りの元、歩行の介助をしてくれたりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	みのり祭の案内を出したり、入退所の支援や電話相談を行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を用い、その人らしい暮らしの構築を図っている。必要に応じてご本人家族と相談の機会を持つなどして思いや意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅生活時、利用されていたヘルパーやケアマネージャー、病院などの関係機関から情報を得る。ご家族からも情報を得るなどしている(センター方式活用)。職員間で情報を共有できるよう随時申し送りや朝礼・終礼で伝達している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日課表を作成し一人ひとりの生活パターン尊重に努めている。毎朝夕に足浴を行い、心身状態を把握する機会としている。担当スタッフ、訪問看護師、医師、ケアマネ、家族それぞれ視点の統合に努めケアを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントツールはセンター方式を用い、利用者本位の計画立てを目指している。また必要に応じてご本人やご家族、関係者とカンファレンスや情報交換の機会を持ち、計画に反映するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間終了の時期に合わせて担当者や関係者とカンファレンスを行い、見直している。また入退院のあとなど、利用者の状態に変化があった場合はできるだけ早めに周囲から情報を集め、新たな計画を作成するようにしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り(朝礼・終礼・申し送りファイル)など活用しながら、情報を共有し利用者さんの変化にも早急に対応出来る様に記録し、実践や介護計画への反映を図る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設されている共用型認知症対応型通所介護と合同で行事したりし、お互い交流しながら支援をおこなっている。 訪問看護ステーションが併設され、医療的な対応の充実し柔軟に対応できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	単独外出など危険への配慮が必要な方には、ご家族に承諾を得た上でSOSシートを作成し、警察に情報提供したり、何かあれば連絡いただけるよう連携を取っている。近隣の方たちとはできるだけ会話や挨拶をしながら、入居者の理解を深めてもらったり、何かあった場合には連絡をいただけるようにコミュニケーションを深めている		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医療機関、福祉用具取り扱い業者、訪問マッサージなどの利用支援を行なっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター主催の会合、研修会にはケアマネージャーが出席している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問看護師と密に連携を取っている。地域の医療機関や、利用者にとってなじみのある医療機関を利用するなどしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医・訪問看護師・ご家族との相談しながら、必要に応じ診断や治療を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日常的に訪問看護師と相談し、連携を図っている。医師の医療的な方針や指示は訪問看護師も朝のミーティングに参加し、訪看より具体的な説明をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際には病院側と情報交換し、退院後の対応についても必ず相談の機会を持つようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族、医師、訪問看護師、介護スタッフで話し合いを行い終末期のケアに取り組んでいる。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医との連携はもちろんの事、訪問看護も24時間で随時対応していることなど、他機関、他職種と連携しながらターミナルでも安心して過ごせるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>新しい住居への下見や、ご本人・ご家族と関係者の話し合い、情報交換、周辺環境の下調べを行なうなど対応。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者中心のケアを基本に、プライバシーへの配慮を心掛けている。また、個人情報の取扱いについても、適宜職員間に注意を促し、意識を高めるようにしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>担当スタッフにより、その人に合せたケアを提供している。自己決定できる場面を出来るだけ多く作っている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のその時の思考に合せたケアを提供している。またその人がとる行動から何を希望しているかを察知している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者それぞれの状態に合わせた支援を心掛けている。理美容は利用者のなじみのお店や地域のお店を利用しているほか利用者の状態に合わせて、訪問美容・訪問理容も活用している</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>季節に合わせたメニューや外食・ケータリング・おやつ作りレクレーション等を計画しながら行なっている。食事の準備(簡単な作業)や片付けは利用者に応じて職員と一緒にしなうなどしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	居室内での火気取り扱いについては出来ないが、決まった場所1Fの(ロビーや2Fのホール)に灰皿を設置している。又職員の喫煙所にて職員と一緒にタバコを吸い、気分転換を図ることもある。買い物、外食等を適宜行っている。晩酌を楽しまれている方もいる。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	水分、排泄の記録の記入、活用しパターン、習慣の把握をしている。その内容を基に声かけ、誘導を行い、できるだけ失禁を防いでいる。紙パンツから布パンツへの変更も状況を見定めながらすすめている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は基本パターンを決めているが、それ以外にも本人の希望や状況を優先し、入浴のタイミングを決めている。 必要な方には毎日入ってもらっている。また、体調に応じて清拭での対応もしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自室以外での一人になれる空間で過ごしたり、居間のソファでうたた寝など自由にそれぞれの方が時を過ごされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出・外食・ドライブや散歩、折り紙・テレビ、新聞など楽しみとされている習慣の支援、洗濯物たたみ・干し、台所仕事や調理(下ごしらえ・盛り付け・味見)などの家事、畑仕事やゴミ捨て、日めくりカレンダーの管理など、役割を活かせるよう配慮している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物時や理美容室での支払いの見守り。銀行に付き添うなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブ、買い物、野外出行などの外出支援を行なっている。又希望時には宗教やお寺参りに定期的に外出支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事に動物園や温泉、外食など、外出企画を組み入れている。又普段のお話から外出したい場所や見たいもの等を聞き、皆で外出し楽しい時間になる様支援する。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設内に自由に使用できる公衆電話を設置している。 電話や手紙の投函などの一連の作業の中で出来ない部分を一緒に行なっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所者については制限なくいつでも来訪できる事を伝えてる。また場合によっては面会を呼びかけるなどしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はされていない。入居契約書にも身体拘束はしない旨の文章記載がされている。入居時に外出、散歩など行動に自由との引き換え(あらゆる拘束をしない為)に起こりうるリスク(転倒など)の説明をさせて頂いてる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	危険防止の観点からやむを得ず、利用者、ご家族へもご理解を呼びかけしたうえで、階段口に施錠しているが、一方で階段手摺りの増設など(転落防止)、出来るだけ鍵を掛けない工夫も進めている。玄関口は出る際のみ、スイッチで開扉するかたちをとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は定期的な水分摂取時等で状況の確認を同時に確認している。夜間は2時間ごとに見回りし、安否確認している。必要時には30分毎での見回りや、居室内での見守りも行なっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ライターは紐でテーブルに結ぶ、保管場所を工夫するなどしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時マニュアル・誤飲時のマニュアル等の準備、定期的に会議などで見直し、研修を行なう。救命救急講習の参加。ヒヤリハット報告を行い毎月の会議にて対応等検討を行なう。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全員ではないが、約1/3程度の職員が普通救命講習を修了している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を実施。特に、防火設備の配置場所や使用方法の確認、避難誘導時における危険箇所の把握などに重点を置いて取り組んでいる。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	プライバシー尊重上起こりうる自室内での転倒などのリスクについて、日頃からご家族に説明し対応について相談するなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食卓テーブルは毎回塩素系漂白剤を薄めたふきんで拭いている。利用者に出すお絞りは電子レンジにて加熱消毒している。調理者はマスク、使い捨てビニル手袋を使用している。手洗いや食中毒防止に関する掲示等。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関に行事の際撮った写真を飾ったり、季節にあった飾り物を置いて来訪しやすい空間になる様にしている。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>正月飾りや七夕飾り、雛人形など季節に応じた装飾等配置している。自由に座ったり、話したりできるスペースを作っている。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>1階玄関ロビーや2階ホールにソファ等配置し、利用いただいている。</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>タンスやベッド、仏壇といった使い慣れた家具等持ち込んでもらったり、ご家族の写真や飾りなど、お気に入りのものを壁に貼ったりしていただいている。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>晴天時は窓開けや布団干しを行っている。また電気消臭器やソリューションウォーター噴霧器を活用している。冷暖房調節をこまめに行なうなど対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・利用者の1日の体調確認やコミュニケーションなどの目的とした朝と夕の2回必ず足浴を行なっている。
- ・入居者、職員、ご家族、来訪される関係者の方すべてに出入りの際は手洗い、うがいをお願いし、感染予防に努めてる。
- ・毎年行なっているみのり祭も7回目を向かえ、地域の方やご家族との交流機会として定着している。
- ・訪問看護ステーションも併設され医療面での対応がより充実した。